

討議資料

三浦市議会議員（無所属）

みうラボReport Vol.12

いしざき 遊太

ゆうた



編集・発行 石崎 遊太 / 令和8年3月発行 / 南下浦町上宮田1422-4 / 080-4733-4115

令和8年第1回臨時会が開かれました

1月に行われた臨時会では、物価高騰に対応するために国から交付される重点支援地方交付金の活用について審議が行われました。この交付金は一定の条件のもとで用途を自治体の裁量で決められるもので、お米券の配布や水道料金の減免など、自治体ごとの特色が反映されます。今回の補正予算では、三浦市における総額約4.7億円の交付金の活用案が示されました。これに対し議会では、交付金の一部を次年度に先送りする内容の妥当性や、デジタル商品券に関する諸課題（公平性や経費面）について議論が交わされました。その結果、速やかで公平性の高い予算執行を重視し、議会側が修正案（下図参照）を提出。この修正案が本会議において全会一致で可決され、確定しました。なお、子育て世帯への給付金（こども1人当たり2万円）は別途支給するものとして、原案通り可決されています。

原案(市側提出案)

現金給付（約2.1億円）
→市民1人当たり5,000円

プレミアムクーポン（約1.4億円）
→付与率30%のデジタル商品券

残額の約1.2億円を次年度予算に活用

議会修正案(全会一致可決)

現金給付（約4億円）

→市民1人当たり **9,500円**

残額の約8500万円を次年度予算に活用



議案質疑に登壇



PROFILE -プロフィール-

いしざき 遊太

ゆうた

HP、各種SNSなどは
こちらからどうぞ!!
過去のみうラボReportも
HPにアップしています。



1991年4月生まれの34歳。幼馴染の妻とともに、娘（3歳）と息子（1歳）の子育てに奮闘中。
上宮田小羊保育園→上宮田小学校→南下浦中学校→県立横須賀高校→慶應義塾大学総合政策学部卒。
2022年7月に約7年間勤めた大手食品メーカーを退職し、三浦市へUターン。地域活動に取り組む。
2023年4月の市議会議員選挙にて、1960票の得票をいただき2位で当選。2025年7月に副議長就任。



料理歴30年の素人料理 /

Zaki's recipe



Recipe 06
味しみ大根の
レバームースのせ



材料

大根

大根 適量
鶏ガラスープの素 大匙1
水 800ml

ソース

バルサミコ酢 30cc
大根の煮汁 60cc
バター 5g

レバームース

鶏レバー(ハツ除き) 100g
玉ねぎ 1/2個
牛乳 150cc
塩 小匙2
白ワイン(酒) 30cc
バター 50g
生クリーム 50cc



お手伝いに夢中な娘

作り方

1. 大根は厚めの輪切りにして、ひたひたの水で20分ほど下茹でをする。
2. 鶏ガラスープの素と水を合わせて、1を弱火で1時間ほど煮込んで味をしみ込ませる。
3. 鶏レバーをそぎ切りにして血の塊をかき出し、牛乳と塩を混ぜた液に10分漬ける。
4. スライスした玉ねぎを5分炒め、水気を切った3を加えて2分ほど炒め合わせる。
5. 白ワインを加えて2分炒め、熱いうちにバターを加えてペースト状にする。
6. 大根の煮汁とバルサミコ酢とバターをとろみが出るまで煮詰めてソースを作る。
7. 生クリームを固めに泡立てて5と混ぜ、器に大根と盛り付けてソースをかける。

味のしみた大根と、濃厚なレバームースのコントラストが楽しめる一品です。
フードプロセッサーは必要ですが、レバームースだけでも試す価値ありです!

みうらみらいラボ 会員募集中

みうらみらいラボは、代表・いしざき遊太との対話を通じて、会員同士で「三浦の今と未来について考え合う」ことを目的とした政治団体です。詳細および入会のお申し込みにつきましては、右の二次元コードよりご確認ください。お電話にて入会のご意思をお伝えいただく際は、以下の情報をお知らせください。

- ①お名前 ②ご住所 ③お電話番号 ④(あれば)メールアドレス
上記をお伝えいただければ、入会手続きは完了です。

なお、市内在住の会員の皆様には、『みうらラボReport』を毎月お届けいたします。



令和7年第4回定例会 一般質問 について

質問の全体像

私が行った令和7年第4回定例会における一般質問の項目は、下記のとおりです。

1.三浦海岸のエリアマネジメント

- (1) 海水浴場運営の歴史と枠組み
- (2) MIURA FUN BEACHの成果
- (3) 来年度以降の海水浴場運営の課題
- (4) 通年利用に向けた課題と取組

2.地域福祉の推進

- (1) 相談支援の取組と現状
- (2) 災害時の要配慮者への対応
- (3) 障がいのある方の地域生活支援
- (4) 地域福祉活動の担い手

1では、昨年市が取り組んだ海水浴場運営の公営化について、その背景や意図をあらためて確認するとともに、成果と今後の課題を問いました。

2では、福祉の入り口として重要な役割を担う相談支援事業をはじめ、障がいのある方への施策について現状を整理し、提言を行いました。

発言の全文については、私が文字起こししたものをブログに見やすく掲載しております。下記の二次元コードからご覧ください。



コチラの二次元コードより
発言全文をご覧いただけます



いしざき遊太 一般質問 Q

三浦海岸のエリアマネジメント

三浦海岸は、ピーク時の1971年にはシーズンだけで400万人が来場していた、三浦市の顔とも言える観光地の一つです。しかし、海水浴というレジャーニーズ自体の変化や猛暑の影響などを背景に、来場者数は年々減少しています。平成11年には100万人を超えていた来場者数も、令和元年には約35万人。そして、民設による最後の開設年となった令和5年には約8万人まで落ち込みました。経営者の高齢化や後継者不足、海の家建設コストの増加に加え、コロナ禍の影響も重なり、令和6年には海水浴場そのものが開設されないという事態に至りました。

こうした状況の中、令和7年は市が初めて開設者となって運営する海水浴場『MIURA FUN BEACH 三浦海岸』がスタート。安全・衛生面の確保は市と三浦市観光協会が担い、にぎわい創出やプロモーションはニッポン放送に委託。全体のコーディネートを市が行うという、従来とは異なる新しい運営形態でした。飲食ブース、ビーチスポーツ、ヨガ、音楽イベント、映画上映、アイドル企画、ラジオ公開生放送、アートプロジェクトなど、多様なコンテンツが持ち込まれ、これまでにはない魅力が打ち出されたことは評価すべき点です。結果として来場者数は約10万人。アンケートではおおむね満足であったとの答弁もありました。これらの結果をどのように評価するのかは、過去との単純比較ではなく、費用対効果や将来への波及効果を含めたきめ細かい分析が不可欠です。



今回の海水浴場の象徴ともいえるストレッチテントを活用したメインステージ。魅力的で多様な企画が数多く打ち出されました。

また、市が開設者となったことで、財政負担は大きく変化しました。従来、市の支出は安全対策費の補助として約300万円程度でしたが、本年度は寄附金や国の交付金を活用しつつも、一般財源ベースで約2,500万円を投入しています。『安定的な財源をどう確保するのか』『固定費をどう圧縮するのか』『将来的に地域が主体的に担える体制をどう構築するのか』。いずれも、先送りできない重要な課題です。市側には、海水浴場という枠に縛られることなく、駅から海岸までの動線設計、海岸線の歩行空間の活用、滞在型コンテンツの構築など、点ではなく面的な発想でのエリアマネジメントを強く求めました。

発言の中での主な要望

- 1.三浦海岸における明確なターゲット選定
- 2.駅から海岸までの動線への仕掛けづくり
- 3.ファミリー層・障がい者への更なる配慮
- 4.データに基づくマーケティング戦略の実践
- 5.運営の担い手への動機づけと伴走の強化
- 6.海岸線の歩行空間活用にむけた区画整備

地域福祉の推進

障がい者福祉は、市の矜持や本気度がその充実度を大きく左右する重要な政策領域です。そして、その入り口となるのが相談支援事業です。相談件数は年々増加しており、支援を必要とする市民が確実に増えていることが、質疑の中で明らかになりました。本市の相談支援体制は、きめ細かな対応を積み重ねてきた誇るべき福祉施策の一つです。

しかし、その一方で、対応に当たる相談支援専門員の数は限られており、事業者にとっては厳しい運営状況が続いています。支援の質を維持しながら持続可能な体制をどう確保するのかは、喫緊の課題です。現在、市長の一連の言動を契機として委託事業者との関係が悪化し、基幹相談支援センターの運営委託契約が今年度をもって解消されることが判明しています。相談支援の中核機能の継続は、今まさに危機的な局面に立たされています。

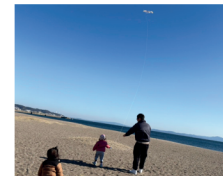
また、移動支援、とりわけ障がいのあるお子様の通学支援については、支援拡大を求める切実な声が寄せられています。通学支援の拡充(特例対応)については、保健福祉部長から比較的前向きな答弁がありました。移動支援は障がい当事者のみならず、その家族の就労や生活全体に直結する重要な施策です。一方で、通所介護との報酬単価差など制度設計上の課題もあり、事業者参入が進みにくい現実も直視しなければなりません。

そして、今回のテーマでもある地域福祉の推進において大きな役割を果たしてきたのが三浦市社会福祉協議会です。しかし、出口市長による問題のSNS投稿は、社協の社会的信用に影響を及ぼしかねないものでした。にもかかわらず、市長は係争中であることを理由に、具体的な対応を行わない姿勢を示しました。市長が強化を掲げる情報公開や情報発信についても、この問題について市民への自発的な説明は皆無です。都合のいい情報のみを発信することが、市長の掲げる『徹底した情報公開』なのでしょう。

充実した地域福祉は、行政と関係事業者との信頼関係があって初めて成り立つものです。市職員と事業者が長年積み上げてきた信頼を、身勝手な言動によって損なった市長の責任は極めて重いものがあります。質問の最後には、市長に対して今すぐ誠意ある行動を取ることを、あらためて強く求めました。

発言の中での主な要望

- 1.相談支援事業者の厳しい運営へのフォロー
- 2.災害時における支援者側の意識向上
- 3.移動支援の制度設計についての国への要望
- 4.地域福祉推進における地域診断書の活用
- 5.避難所運営委員会開催へのバックアップ
- 6.市長の社協に対する誠意ある行動



議員活動にケースワーカー実務、資格の勉強と慌ただしい毎日ですが、すべてがことまたちの未来のためになることを信じて、とにかく全力で走り続けます！